

令和4年度 修了式 校長より

今日で令和4年度が終了しますが、振り返ってみていかがでしたか？感染症の影響もありましたが、今ここで皆さんが元気に修了式を迎えることができてよかったです。特に、体育祭や文化祭、2年生の修学旅行、合唱祭、マラソン大会といった大きな行事を実施することができ、うれしい限りです。

ところで、皆さんはタレントの風見しんごさんを知っていますか？16年前の2007年に10歳の娘さんをトラックにはねられる交通事故で亡くしました。私事ですが、風見さんは私と同じ年、私の娘も同じ年なので、その事故に大変な衝撃を受けたことを覚えています。その時の様子が先日の朝日新聞に掲載されていました。朝「いってきまーす」と小学校へ出かける娘さんが間もなくトラックの下敷きに…ニュースでは「車にはねられ、搬送先の病院で死亡が確認されました」と短い原稿が読まれるが、風見さんは、現場にかけつけてから救急車で運ばれ病院で亡くなるまでの1時間半の間、そこには必死に生きようとした娘さんの命の戦いがあり、親としての怒り、後悔、苦しみがどれだけつまっているか想像してほしい、と言っています。そして、残された人はとにかく生きなければいけないのだ、と訴えています。

皆さんは、ときどき「なんで私は生きているんだろう」と考えるかもしれません。苦しいことや思い通りにならないことも少なくないし、人生にどんな意味があるのか？この問いの答えを求めて哲学なんて学問を勉強する人もいます。

以前、映画「男はつらいよ」で主人公の寅さんが甥っ子に「生まれてきてよかったと思える、その一瞬のために人間生きているんじゃないか」と答えたセリフを紹介したことがあります。しかし、最近雑誌で歌手の小椋佳さんがお話していることもすっとんと腑に落ちたので紹介させていただきます。

「なぜ人は生きるのか」の答えなんか用意されていない、最初から与えられているものじゃなかった。自分の人生を通じて見いだしていくほかないのです。そして、小椋さんの目下の関心事は、人の「心臓」であり、なぜ心臓は鼓動を続けているのだろうか、これを動かしているのは“何者”なのか？ビリヤードでキューの一突きで玉がぶつかり合い散らばるように、心臓が鼓動することで血流が廻り臓器や筋肉などが動き始めるには最初の一

突きがないと動きません。こう考えると、心臓がまさにそうだけれど、人間って生きようと思って生きているわけではない。何故だかわからないけれども生きている。何かに活かされているのです。

先ほどの風見さんはこう言っています。「それまでいっぱい幸せがあったのに素通りしてきたんですね。幸せとは、あたりまえがあたりまえにあることだと思う。そのことを天国に逝った娘が気づかせてくれた。」同い年の私も、年のせいか「あたりまえ」のありがたさを感じる事が実に多くなりました。大好きなカレーなど美味しいものを食べられること、美しい桜を見られること、小川高校で仕事ができることも…

この後離任式が行われ、この3月で小川高校を離れられる先生方を紹介しますが、私も退職の年を迎えお別れを言わなければなりません。私は教員として38年間さまざまなことを伝えたいと思ってやってきました。でも一番はたぶん今日お話しした「命の大切さ」「人はとにかく生きなければならない」ということかもしれません。だから今日、この場で伝えさせてもらいました。これを離任の挨拶に代えさせてください。

最後に、昨日入学準備会を行いました。後輩となる44期生の素敵な先輩としてこの後の小川高校を頼みます！ということをお願いして、本日のお話を終わります。